

中期目標の達成状況に関する評価結果

(4年目終了時評価)

北見工業大学

令和3年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	
評価結果	
《概要》	3
《本文》	4
《判定結果一覧表》	16

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

北海道で実践しグローバルに展開する中核的地域拠点大学

「自然と調和したテクノロジーの発展を目指して」

北見工業大学は、1960年（昭和35年）、戦後の高度経済成長期を時代的背景とし、工業立国を目指す社会的要請等により、工学に関する実務的な専門教育を授け、地方産業や日本の発展と興隆に寄与し得る学力と識見を兼ね備えた技術者を育成することを目的に、北海道オホーツク地域に北見工業短期大学として設置された。1966年（昭和41年）には4年制の北見工業大学となり、大学院工学研究科修士課程の設置（1984年）、博士前期課程・後期課程への改組（1997年）等の整備を経て1万6千人近くの卒業生を輩出し、様々な工学分野で活躍を遂げる技術者として地域はもとより日本全国の産業界に多大な貢献を果たしている。

本学は「人を育て、科学技術を広め、地域に輝き、未来を拓く」を理念に掲げ、基礎学力を有し、科学技術、地域社会、国際社会へ貢献できる人材の育成に努めている。北海道オホーツク地域は、寒冷地域であると同時に自然環境や資源に恵まれた1次産業地域でもある。これまで、本学の立地環境を生かした、寒冷地域に関する防災科学研究を始めとして、地域に貢献し得るエネルギー・環境工学、バイオ食品工学、先端材料工学、情報科学等の特色ある研究を推進してきた。

本学は第2期中期目標・中期計画期間に示されたミッションの再定義及び国立大学改革プランを踏まえ、学長のリーダーシップ、ガバナンスの下で地域の中核的拠点となるべく、強み、特色、社会的役割等を更に明確にして、個性化、機能強化を行う。また、人口減少、少子高齢化、過疎化などの社会環境の変化や情報通信技術の発達などの技術環境の変化に柔軟に対応できる教育研究組織を構築し、この地域の特質を活かした魅力ある工科大に発展することを目指す。学士課程では基礎教育を重視し、学科間の垣根を取り払い、より一層の個性化、高度化、グローバル化を推進する。大学院課程では寒冷地域環境工学、エネルギー工学、工農、医工連携など実践的な教育研究を実施し、専門技術者、高度専門技術者を育成し社会的要請に応え社会で活躍できる人材を輩出する。学士課程及び大学院課程を通して、自然豊かな地域を活かしたフィールドワークの教育の場として全学的に環境教育を行い、「自然と調和したテクノロジー」の素養を持つ学生を育てる。この目的を達成するために第3期中期目標・中期計画期間中に学部及び大学院博士前期課程の改組を実施する。研究では研究推進機構を中心に本学の特色ある研究開発に取り組み、北海道やオホーツク地域などが抱える問題を工学技術をもって解決する研究を実施し、成果は地域で実践しグローバルに展開する。地域貢献では社会連携推進機構を中心として地域における知の拠点としての役割を一層明確に果たすとともに、高大連携、社会人教育等にも積極的に取り組み、地域教育の充実強化にも貢献する。このために、学内では、「教育支援機構」、「研究推進機構」、「学術情報機構」及び「社会連携推進機構」の4つの機構間の連携を強化し、本学の機能強化を推進するとともに、他大学、研究機関等、行政機関や経済界などとの連携を強化し、地域経済の活性化に積極的に貢献し地方創生を目指す。

1. 学部等の構成

工学部

工学研究科

2. 学生数及び教職員数

学部学生 1,769 人（うち留学生 42 人）

大学院生 292 人（うち留学生 30 人）

教員 137 人

職員 96 人

[個性の伸長に向けた取組（★）]

○ 伝統的工学分野に基づいた学科構成を転換し、幅広い工学基礎知識と地域からグローバルに亘る多様な問題解決に取り組む能力を身につけた技術者養成を行うため、平成 29 年度から工学部 6 学科を新たに「地球環境工学科」及び「地域未来デザイン工学科」の 2 学科 8 コースへ改組し、従前の伝統的な学科区分による学習から専門分野に偏らない柔軟で幅広い分野の基礎的学習を可能とした。（関連する中期計画 1-1-1-4）

○ 令和 3 年度に改組予定の工学研究科博士前期課程では、学士課程で培った多面的・複合的な知識・能力をより高度化するため、機械電気工学分野、社会環境工学分野、情報通信工学分野、応用化学分野を教育研究の柱とする 1 専攻・4 専修プログラムとし、主指導教員、副指導教員の指導の下、企業等との共同研究や地域課題解決に関連する PBL（課題解決学習、Problem-Based Learning）型学位論文（修士論文）研究を推進することとしている。

教育課程の編成では、研究課題に対応するための専門基礎・応用力を養成する専門科目と専門技術者に必要な知識・技術を涵養する数理データサイエンス、マネジメント工学科目の修得を義務付けている。専門能力を深化させるだけでなく横断的研究力と学際分野への展開力を育成することで、主体的に問題を解決できる能力と広い視野を有し責任感と倫理観を持つ専門技術者の養成を目指している。（関連する中期計画 1-1-1-4）

○ 近年の大型災害における社会的減災要請を受け、重点研究分野の研究ユニットである「複合型豪雨災害研究ユニット」を発展的解消し、令和元年 5 月に「地域と歩む防災研究センター」を設置した。当該センターの設置により、防災研究に活用できるリソースを一元化した教育・研究を展開し、積雪寒冷地域における防災力向上に貢献するための研究成果をより多く社会へ還元することが可能となった。

多くの学生がセンターの実験施設として、北見市から無償で借り受けた遊休公共施設（競馬場跡地）に設置した実物大の各種大型実験施設（屋根型林道実験設備、補強土壁、盛土のり面実験設備、屋外開水路実験施設）を卒業研究における実証試験の場として利用しており、札幌市で開催された「令和元年度北の国・森林づくり技術交流発表会・森林技術部門」において、本学大学院生が屋根型林道実験設備を対象とした研究成果により奨励賞を受賞する等、社会貢献に資する教育研究拠点としての成果があがっている。（関連する中期計画 3-1-1-1）

[戦略性が高く意欲的な目標・計画（◆）]

○ 北海道オホーツク地域との連携を強化し、地域の遊休公共施設を教育・研究・社会貢献活動のフィールドとして活用するとともに、地域のコミュニティ支援の場として活用し、学生参画による科学実験や公開講座等を実施することにより、生涯学習や理科教育拠点としての役割を果たす。さらに、研究成果等を活用した産業振興及び遊休公共施設のインキュベーション施設化等により雇用創出の基盤形成を支援する。また、学生の雇用創出を図るために、地元を中心とした地方公共団体と連携し企業誘致活動を推進するなどして、学部卒業者の道内就職率を平成 31 年度までに平成 26 年度に比べて 10%以上増加させる。（関連する中期計画 3-1-1-1）

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況（4年目終了時）について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、北見工業大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を上げ ている	【3】 進捗して いる	【2】 十分に進 捗しているとはい えない	【1】 進捗して いない
I 教育に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある		1			
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		
3 学生への支援に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		
4 入学者選抜に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		
II 研究に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			3		
2 研究実施体制等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			1		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
	なし			2		
IV その他の目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 グローバル化に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、1項目が「計画以上の進捗状況にある」、3項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
基礎学力を身につけるとともに主体的に問題を解決する能力と広い視野を有し、専門的な技術者として産業界で活躍できる人材を育成する。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。 ○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「インターンシップの充実」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	(優れた点) ○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 情報科学概論演習について、大学（小樽商科大学・帯広畜産大学）経営統合後の連携教育プログラム及び数理データサ		

	<p>イェンス教育プログラムと位置付けて実施している。また、Web上に設置している学習管理運営システムを活用したオンデマンド配信と、Webサービスによるプログラミング言語「Python 演習システム（北海道大学数理データサイエンス教育研究センターとの連携）」を組み合わせることにより、パソコン演習室外における演習教育を可能としている。加えて、新型コロナウイルス感染症における状況下において、理解が不十分な学生を対象として、Webexを活用したライブ配信によるハンズオンセミナー的講義コマを設け、通常の対面授業と同様の成果が得られるようにしている。（中期計画 1-1-1-1）</p> <p>○ インターンシップの充実</p> <p>学部学生の勤労観、職業観を育成するとともに地域貢献への意識向上を図るため、地域密着型インターンシップを推奨するとともに、複数年インターンシップや学内インターンシップを推奨している。低年次学生からの参加も得られ、インターンシップ参加学生数は令和元年度末で202名となり、第2期中期目標期間の平均人数65名に対し、211%増加となっている。（中期計画 1-1-1-2）</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ 学科改組と多様な技術者養成</p> <p>伝統的工学分野に基づいた学科構成を転換し、幅広い工学基礎知識と、地域からグローバルの多次元に亘る多様な問題解決に取り組む能力を身につけた技術者を養成するため、平成29年度から工学部6学科を新たに地球環境工学科及び地域未来デザイン工学科の2学科8コースへ改組している。（中期計画 1-1-1-4）</p> <p>○ アクティブ・ラーニングの推進</p> <p>学部学生の主体的な学びと問題解決能力を養成するため、新カリキュラムにおいて、アクティブ・ラーニングを導入した科目を令和元年度で166科目実施しており、第2期中期目標期間の平均科目数87科目に対し、91%増となっている。（中期計画 1-1-1-5）</p>
--	--

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2 項目のうち、2 項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由		
<p>学生に対する教育効果を高めるため、教育環境を整備するとともに、教育の質を高めるための施策を充実させる。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>		
				<p>《特記事項》</p>	
				<p>該当なし</p>	
小項目 1-2-2	判定		判断理由		
<p>地域における知の拠点としての役割を果たすべく、社会と連携した教育を進めるとともに、社会人学び直しのための教育を積極的に行う。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>		
				<p>《特記事項》</p>	
				<p>(特色ある点) ○ 高大連携の推進 体験的な学習プログラムに重点を置き、見たり触れたりすることで楽しみながら科学や工学を学ぶ「大学で学ぶサイエンス」では、4年間で延べ148名のオホーツク管内の高校生が参加している。また、高校生が大学の研究を学ぶ「遠軽高校講座」では、4年間で延べ40名が参加している。いずれの事業においてもアンケートでは、ほとんどが大変満足との回答であり、来年も是非参加したいとの回答や工学に興味を持ったとの回答も多数見られている。(中期計画 1-2-2-1)</p>	

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1	判定		判断理由
学生の主体的・自立的学修を支援するための体制・環境を整備し、修学および就職支援のための取組を充実する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 1-3-2	判定		判断理由
学生の生活支援として経済的支援を充実するとともに、自主的・自律的行動力を育み地域貢献への意欲を醸成する取組を充実する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 地元就職奨学金制度の設立 地域への就職率向上のため、地元企業に就職する場合のインセンティブとして地元就職奨学金制度を平成 29 年度に設立し、地元商工会議所と連携して周知した結果、地元企業 28 社から賛助企業となる旨申し出がなされている。パンフレットを作成し、学生に周知した結果、令和元年度に 1 名が制度を利用して就職している。(中期計画 1-3-2-1)		

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
 (判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1	判定		判断理由
アドミッション・ポリシーに基づき大学入学希望者の多様な能力を多元的に評価する選抜へ抜本的に改革する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 総合型選抜の導入 令和2年度実施分から新たに導入する総合型選抜について、特色ある3枠 (コース確定枠、第一次産業振興枠、冬季スポーツ枠) で学生募集を行うこととし、多様な能力を持つ受験者の資質を見極めるために学修計画書を求めることとするなど、具体的な選抜方法が決定されている。(中期計画 1-4-1-1)		
小項目 1-4-2	判定		判断理由
大学院における入学者の増加を図るため、選抜方法を改善するとともに支援体制を充実させる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

Ⅱ 研究に関する目標（大項目 2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、2項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目 2-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、3項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
寒冷地域、1次産業地域に立地する中核的研究拠点として、工学技術をもって地域社会の発展や世界に貢献できる研究開発を実施する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 戦略に沿った重点研究分野の推進 地域社会の発展や世界に貢献できる研究開発を実施するため、特色ある重点研究分野を定め、4つの研究推進センター（環境・エネルギー研究推進センター、冬季スポーツ科学研究推進センター、オホーツク農林水産工学連携研究推進センター、地域と歩む防災研究センター）を設置し、学長裁量経費の優先的配分や研究スペースの優先的利用を図ることにより、戦略に沿った研究を計画的に推進する体制を整備・強化している。（中期計画 2-1-1-1、2-1-1-2） ○ 地域と歩む防災研究センターの設置 積雪寒冷地域における防災力向上に貢献する研究成果を社会還元するため、地域と歩む防災研究センターを令和元年5月に設置している。センターの前身である研究ユニットでは、平成28年北海道豪雨災害時の調査結果を学術論文とし		

	<p>てまとめるとともに、平成 30 年北海道胆振東部地震時に素早く現地調査等を実施して調査結果を外部公表するなど、災害に対する社会的要請に適切に対応している。センター設置によって、地域社会の発展にさらに幅広く寄与することが期待されている。（中期計画 2-1-1-1）</p> <p>○ オホーツク農林水産工学連携研究推進センターの設置</p> <p>日本でも有数の第一次産業地域である、北海道オホーツク地域の第一次産業支援に取り組むため、オホーツク農林水産工学連携研究推進センターを設置し、農業・林業・水産業を工学的に支援することでオホーツク地域の持続可能な発展に寄与している。（中期計画 2-1-1-2）</p>		
小項目 2-1-2	判定		判断理由
<p>研究論文等の質的、量的な充実及び競争的資金等の獲得強化を図る。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>（特色ある点）</p> <p>○ 科研費申請の環境整備</p> <p>科研費申請に対する支援を不採択者だけではなく、若手教員にも提供するため、外部委託による申請書添削の費用支援や、科研費の複数採択経験のある若手研究者による講演を開催するとともに、上位種目挑戦者に対して、大型の科研費獲得に繋げるための支援を行うことにより、挑戦しやすい環境を整備し、科研費獲得件数の増加、研究の量及び質の向上を図っている。（中期計画 2-1-2-1）</p>			
小項目 2-1-3	判定		判断理由
<p>研究成果を積極的に情報発信するとともに、知的財産活動を推進し、地域の中核的拠点としての役割を果たす。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>該当なし</p>			

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1	判定		判断理由
地域社会の発展に貢献できる研究開発を推進するために、第 2 期に設置した研究推進機構、学術情報機構、社会連携推進機構の横	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
の関係強化による研究推進・支援体制を整備する。	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 地域貢献のための研究体制整備 北海道オホーツク地域の第一次産業関連組合 (農業: 14 農協、林業: 9 森林組合、漁業: 10 漁協) とそれぞれ包括連携協定を締結し、地域社会の発展に貢献できる研究開発のための体制を整備している。(中期計画 2-2-1-2)</p> <p>○ 重点研究分野の外部評価 重点研究分野を推進する研究組織の成果に対して、学外有識者 7 名による外部評価委員会を組織し、書面及びヒアリングによる外部評価を実施している。評価結果は、各研究組織にフィードバックすることにより、研究推進体制の改善・充実に活用している。(中期計画 2-2-1-3)</p>		

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
広域大学連携及び産学官金連携により地域産業活性化から雇用創出及び学生の地元定着を促進し、地域社会の発展に貢献する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点)		
	○ 国際交流活動の拡大 社会貢献プログラムや外国人留学生による国際交流活動について、HP等による周知だけでなく、オホーツク地域18市町村を直接訪問してその活動を周知するとともに、地域のニーズを把握しそれに応えている。第3期中期目標期間の目標値128名に対し、令和元年度末時点での国際交流活動に参加した留学生の平均人数は210名となっている。(中期計画3-1-1-3)		
	○ 地域に向けた実践的教育の推進 学部カリキュラムにおいて、フィールドワーク等を活用して、地域の特色や自然環境保全と大学との関わりを理解し、地域の課題解決に貢献する人材育成を図ることを目的とした授業科目からなる実践的教育プログラムを設定し、地域の企業関係者、一次産業従事者、行政関係者などで組織される実践的教育プログラム評価外部委員会において、実践的教育プログラムの科目の認証、実施体制の評価・検証や、改善充実のための方策を検討している。(中期計画3-1-1-3)		

小項目 3-1-2	判定		判断理由
地域の活力を生み出す核となり持続可能な社会づくりに貢献するため、知の拠点として地域社会との連携を強化する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 地域イベントへの積極的な参画 共催・後援等の制度そのものを地域に広く周知し、地域イベントへ積極的に参画することによって、共催・後援事業等の件数が、第2期中期目標期間における平均件数(25.6件)に対して第3期中期目標期間の数値目標である20%を超えて94%増加し、49.8件となっている。(中期計画3-1-2-1)</p> <p>○ 地元企業との共同研究講座の設置 オホーツク農林水産工学連携研究推進センターが、地域の第一次産業資源を商品化している地元企業と、持続可能で効率的なハッカ栽培法やハッカ油の高品質な加工技術の開発によって、栽培から加工までの一連の研究成果をサービス・製品化することで、社会へ研究成果を還元することを目指して、共同研究講座を令和元年12月に設置している。(中期計画3-1-2-1)</p>		

IV その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「順調に進んでいる」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1） グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
教育研究のグローバル化に向け、海外の大学等との双方向交流を推進する。特に、国際的に活躍できる人材の育成や優れた研究成果を創出するため、日本人学生の海外派遣を促進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫ （特色ある点） ○ LINE による海外体験共有の推進 海外派遣経験者の LINE グループを形成し、派遣を希望する学生が LINE グループに参加・質問等できる体制を構築するとともに、語学研修参加者等の体験内容を報告する文化・語学研修&留学報告会を実施している。また、本学の留学生、日本人学生と地域との交流イベント「インターナショナルCアワー」で、留学経験の体験談をまとめた書籍を出版した学生による留学体験発表を実施している。（中期計画 4-1-1-2）		

小項目 4-1-2	判定		判断理由
優秀な外国人留学生の戦略的な受入れのため、外国人留学生支援を強化し受入れを多様化するとともに、日本人学生のグローバル化を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)		
中期目標(小項目)		
中期計画		
大項目1 教育に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.25 うち現況分析結果加算点 0.00
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある 4.00
小項目1-1-1 基礎学力を身につけるとともに主体的に問題を解決する能力と広い視野を有し、専門的な技術者として産業界で活躍できる人材を育成する。	【4】	優れた実績を上げている 2.80
中期計画1-1-1-1 学部学生の基礎学力を高め学習意欲を引き出すため、「入学前教育」・「補習教育」を含め、新たに「環境に関する総合科目」の導入なども考慮した「初年次教育」の方針について再検討を行うとともに、「初年次教育」の方針に基づいたカリキュラムを平成28年度までに構築する。また、構築したカリキュラムの教育効果については継続して検証を行い、必要に応じて改善する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画1-1-1-2 学部学生の勤労観、職業観を育成するとともに地域貢献への意識向上を図るため、地域密着型インターンシップを推奨するとともに、複数年インターンシップや学内インターンシップを推進し、インターンシップ参加学生数を第2期中期目標・中期計画期間における平均人数に対して20%増加させる。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画1-1-1-3 技術者として社会で求められる基礎学力を確実に身につけた人材を輩出するため、学士課程の入学受入方針(アドミッション・ポリシー)、教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)及び学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を一体的なものとして再構築を行い、平成28年度までに公表する。また、カリキュラム・ポリシーに基づき、ナンバリング制の導入、学生の授業外学修時間を増加させるための検討、重み付成績評価の導入などを通して学修成果の可視化、教育課程の体系化・実質化を進める施策を検討し、平成29年度から導入するとともに、ディプロマ・ポリシーに基づいた達成度評価による卒業判定制度を導入する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-4(★) 学部・大学院の教養教育に関するポリシーを地域・社会連携、グローバル化などの観点を含めて検討を行うとともに、専門分野に偏らない広い視野を備えた技術者を養成するためのカリキュラムを第3期中期目標・中期計画期間中に構築する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画1-1-1-5 学部学生の主体的な学びと問題解決能力を養成するため、アクティブラーニング等を活用した学生参加型の授業を第2期中期目標・中期計画期間における平均授業科目数に対して10%増加させる。また、大学院において幅広い視野を持った実践的な専門技術者を育成するため、アクティブラーニングに加えてフィールドワーク等を重視し、専門分野の枠を越えた統合的なカリキュラム及び独創的な研究活動を遂行する一貫した「学位プログラム」を第3期中期目標・中期計画期間中に構築する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.00
小項目1-2-1 学生に対する教育効果を高めるため、教育環境を整備するとともに、教育の質を高めるための施策を充実させる。	【3】	進捗している 2.00
中期計画1-2-1-1 教育の質や水準を担保するため、FD活動の方法について再検討を行い教員の教育力を向上させる。特に、FD活動の中心となる講演会に関しては、参加者を第2期中期目標・中期計画期間における平均人数に対して20%増加させる。また、授業アンケートを始めとする学生の声を反映させる方策に関しても改善を進める。さらに、情報処理センター演習室を1ヶ所に集約し、情報教育の質を高める。	【2】	中期計画を実施している
小項目1-2-2 地域における知の拠点としての役割を果たすべく、社会と連携した教育を進めるとともに、社会人学び直しのための教育を積極的に行う。	【3】	進捗している 2.00
中期計画1-2-2-1 高校生等の科学や工学に対する興味・関心を喚起するため、研究室訪問や模擬講義・実験等を実施し、大学における高度な教育・研究に触れる機会や現役学生との交流の機会を拡充する。また、高校や高専との連携を強化し、高大連携プログラムを推進するとともに、高専からのインターンシップ受入れ拡充のため、インターンシッププログラムの提供や参加者の受入れ環境の整備を行い、受入れ数を第2期中期目標・中期計画期間における平均受入れ数に対して20%増加させる。	【2】	中期計画を実施している

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	中期計画1-2-2-2 地域の課題解決を図る人材の育成を推進するため、地域に関する授業を拡充し、その成果をインターシップや地域事業等への学生参加を通して地域社会に還元する。また、社会人学び直しの場の提供として、科目等履修生の受入れを増加させるとともに、大学院博士前期課程を中心とした社会人受入れのための新しい制度並びにカリキュラムを構築する。さらに、生涯教育支援センターと指導教員が中心となり、異分野の教員も連携しながら、社会人入学生に対して講義の受講や研究プロジェクトの推進、経済的支援等に関して、夜間、週末の指導やICTも活用しながらき細かい支援を行うことにより、生涯学習の機会を拡充する。	【2】	中期計画を実施している	
中項目1-3 学生への支援に関する目標		【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-3-1 学生の主体的・自立的学修を支援するための体制・環境を整備し、修学および就職支援のための取組を充実する。		【3】	進捗している	2.00
中期計画1-3-1-1 学部学生の主体的学習習慣の育成及び質を伴った学修時間の増加を図るため、図書館のアクティブラーニングフロアにプレゼンテーションエリアを設置するとともに、ラーニングアドバイザーによる学習サポートを実施する。また、キャリアデザインのベースとなる社会人基礎力を育成する講習会を充実させるなど就職支援の取組を強化する。		【2】	中期計画を実施している	
小項目1-3-2 学生の生活支援として経済的支援を充実するとともに、自主的・自律的行動力を育み地域貢献への意欲を醸成する取組を充実する。		【3】	進捗している	2.00
中期計画1-3-2-1 優秀な大学院生の確保のために独自の授業料免除や奨学金の充実を図るとともに、地域への就職率向上のため地域企業と連携し、学部学生を対象とした奨学金制度を平成29年度までに導入する。また、学生の生活支援として入学科免除、授業料免除等の経済的支援を継続して行う。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-2-2 学生による地域ボランティア活動等を促進し、地域社会を理解し地域貢献に意欲を有する人材の育成を図るため、自主的活動に対するインセンティブを高めるための適切な表彰制度を整備するとともに、学士課程にボランティア活動の教育的効果を適正に評価するための単位制度を導入する。		【2】	中期計画を実施している	
中項目1-4 入学者選抜に関する目標		【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-4-1 アドミッション・ポリシーに基づき大学入学希望者の多様な能力を多元的に評価する選抜へ抜本的に改革する。		【3】	進捗している	2.00
中期計画1-4-1-1 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)を活用し、本学アドミッション・ポリシーに基づき多様な能力を多元的に評価する新たな入学者選抜方法を平成32年度までに導入する。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-4-1-2 組織改革と併せて新しい学科構成における理念・学習教育目標を基礎とした本学の入学者選抜におけるアドミッション・ポリシーを教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と一体的なものとして再検討し、平成28年度までに公表する。		【2】	中期計画を実施している	
小項目1-4-2 大学院における入学者の増加を図るため、選抜方法を改善するとともに支援体制を充実させる。		【3】	進捗している	2.00
中期計画1-4-2-1 大学院における志願者の増加を図るため、面接方法・出題科目等を改善するとともに、科目履修制度と連携した新しい制度に対応した社会人選抜及びインターネットを利用した新たな外国人留学生選抜を平成32年度までに導入する。また、学部から大学院までの連続性を持ったカリキュラムを整備するとともに、独自の奨学金制度等を平成33年度までに導入する。		【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)		
中期目標(小項目)		
中期計画		
大項目2 研究に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.00 うち現況分析結果加算点 0.00
中項目2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.00
小項目2-1-1 寒冷地域、1次産業地域に立地する中核的研究拠点として、工学技術をもって地域社会の発展や世界に貢献できる研究開発を実施する。	【3】	進捗している 2.00
中期計画2-1-1-1 世界的あるいは日本全体に関わる普遍的な課題に対し、本学の特色ある工学技術の蓄積と研究者のリソースによる解決を図り、その成果を地域に還元・貢献するという視点から、「エネルギー工学」、「地球環境工学」、「寒冷地域防災工学」、「先端材料工学」等の重点研究分野を設定する。これらの分野に学内資源を重点配分し、研究成果を積極的に発信する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画2-1-1-2 人と自然とが共生し、一人ひとりが自立して生活できる明るく活力のある健康長寿社会の形成及び安心・安全な地域社会の形成などに貢献するという視点から、「医工連携」、「工農連携」、「冬季スポーツ工学」、「機械知能情報工学」等の重点研究分野を設定する。これらの分野に学内資源を重点配分し、研究成果を積極的に発信する。	【2】	中期計画を実施している
小項目2-1-2 研究論文等の質的、量的な充実及び競争的資金等の獲得強化を図る。	【3】	進捗している 2.00
中期計画2-1-2-1 重点研究分野においては、学内資源の重点配分等により論文数、科研費採択件数、外部資金獲得教員数について、それぞれの平均が第2期中期目標・中期計画期間における平均を上回るようにする。また、応募有資格者数に対する科研費申請件数の比率を100%以上にするとともに、予算配分の見直し等の支援強化により、第2期中期目標・中期計画期間の平均科研費採択件数を上回るようにする。	【2】	中期計画を実施している
小項目2-1-3 研究成果を積極的に情報発信するとともに、知的財産活動を推進し、地域の中核的拠点としての役割を果たす。	【3】	進捗している 2.00
中期計画2-1-3-1 地域の自治体等と連携し、研究成果発表会、公開講座、パンフレット配布、WEB等を活用した研究成果の情報発信を強化し、地域の中核的拠点としての存在価値を高める。	【2】	中期計画を実施している
中項目2-2 研究実施体制等に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.00
小項目2-2-1 地域社会の発展に貢献できる研究開発を推進するために、第2期に設置した研究推進機構、学術情報機構、社会連携推進機構の横の関係強化による研究推進・支援体制を整備する。	【3】	進捗している 2.33
中期計画2-2-1-1 地域情勢に即応し、総合的な研究力を発揮できる研究推進体制にするために、平成30年度までに研究支援室(仮称)を設置する等、研究環境・事務的サポートを含めた組織の効率的見直しを実施する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画2-2-1-2 地域活性化の中核拠点としての役割を果たし、地域社会の発展に貢献できる研究開発を推進するために、重点研究分野に特任研究員や特任助教などの配置、学長裁量スペースの優先使用、研究費の配分などを行い、研究推進体制を強化する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画2-2-1-3 研究水準を検証し、評価結果を研究の質の向上に反映させるために、重点研究分野を推進する研究組織の研究成果について、毎年度自己評価を実施するとともに、平成30年度及び平成33年度に外部評価を実施する。また、新たな重点研究分野となる萌芽的な学内研究を育成する。	【2】	中期計画を実施している

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
	なし	—	—
小項目3-1-1 広域大学連携及び産学官金連携により地域産業活性化から雇用創出及び学生の地元定着を促進し、地域社会の発展に貢献する。	【3】	進捗している	2.33
中期計画3-1-1-1(★)(◆) 北海道オホーツク地域との連携を強化し、地域の遊休公共施設を教育・研究・社会貢献活動のフィールドとして活用するとともに、地域のコミュニティ支援の場として活用し、学生参画による科学実験や公開講座等を実施することにより、生涯学習や理科教育拠点としての役割を果たす。さらに、研究成果等を活用した産業振興及び遊休公共施設のインキュベーション施設化等により雇用創出の基盤形成を支援する。また、学生の雇用創出を図るために、地元を中心とした地方公共団体と連携し企業誘致活動を推進するなどして、学部卒業者の道内就職率を平成31年度までに平成26年度に比べて10%以上増加させる。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画3-1-1-2 地域社会との連携を強化し、フィールド研究や様々な地域課題について調査を行う。さらに、地域の課題解決に積極的に取り組むため、フィールドワーク等を活用した実践的なカリキュラムを導入し、研究成果を教育の場に反映させることにより、学生の地域に関する総合的理解と地域創生への意識向上を図る。また、地域社会の活性化に貢献するため、地域の要望を踏まえたシンポジウムや各種講座等の開催を通じ、社会人技術者の学びの場の提供や研究成果を広く情報発信する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画3-1-1-3 理科離れの防止と工学への興味を喚起するため、小中学生を対象として、平成23年度から始めた、教育委員会と連携した科学実験やものづくり体験の実践教育を継続的に実施する。さらに、本学の社会貢献プログラムを通して、大学での講義、実験又は出張による事業を、第2期中期目標・中期計画期間における平均件数に対して20%増加させる。また、外国人留学生による地域のグローバル化支援について、地方公共団体等と連携し小中学校への訪問等様々な国際交流活動に参加する外国人留学生数を第2期中期目標・中期計画期間の平均人数に対して20%増加させる。	【2】	中期計画を実施している	
小項目3-1-2 地域の活力を生み出す核となり持続可能な社会づくりに貢献するため、知の拠点として地域社会との連携を強化する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画3-1-2-1 地方公共団体、企業、研究機関との連携によるコンソーシアムを活用し、国、道、市町村等の各種審議会や委員会、地域産業界と連携した研修や研究会等に積極的に参画・協力する等、地域でのリーダーシップを発揮することにより知の拠点としての役割を果たす。地域における共催・後援事業等を第2期中期目標・中期計画期間における平均件数に対して20%増加させる。また、地域のニーズ調査結果を踏まえて大学シーズとのマッチングにより、効果的な地域支援及び地域連携について取り組む。	【2】	中期計画を実施している	
大項目4 その他の目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
中項目4-1 グローバル化に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目4-1-1 教育研究のグローバル化に向け、海外の大学等との双方向交流を推進する。特に、国際的に活躍できる人材の育成や優れた研究成果を創出するため、日本人学生の海外派遣を促進する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画4-1-1-1 海外の大学等との双方向交流を推進するため、国際交流協定締結校を20%増加させる。また、国際共同研究、国際連携教育プログラム、国際シンポジウム、国際交流研修等を実施し、双方向交流を推進する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画4-1-1-2(*) 日本人学生の海外派遣を促進するため、国際交流センターの教員を中心に、英語、中国語などの課外授業を実施し、日本人学生の海外派遣を支援、促進する修学環境を整備する。また、派遣経験者のネットワークを構築して在学中に情報発信を行う。これらの方策により、日本人学生の年間海外派遣者数を第2期中期目標・中期計画期間における平均派遣者数に対して20%増加させる。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目4-1-2	優秀な外国人留学生の戦略的な受入れのため、外国人留学生支援を強化し受入れを多様化するとともに、日本人学生のグローバル化を推進する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画4-1-2-1	外国人留学生支援の強化による受入れの多様化及び日本人学生のグローバル化を図るため、英語による授業を学部、大学院合わせて2科目程度開講するとともに、英語を併用した授業を20%開講する。また、WEBやSNS等を活用した英語による情報発信及び外国人留学生に対する生活・就職支援等を充実する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画4-1-2-2(*)	外国人留学生受入れ手段の多様化のため、海外大学とのツィニングプログラム等に参加し、外国人留学生数を第2期中期目標・中期計画期間における平均人数に対して10%増加させる。	【2】	中期計画を実施している	

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。

- (★): 「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
- (◆): 文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
- (*) : 新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析: 「教育」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析: 「研究」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。